

高橋秀哉作 「生徒会」

効果音 (クラスのガヤ)

ナレーション この物語は、1980年代の東京。ここは青春高校の生徒会室です。文化祭を前に、役員一同てんでこ舞い。自分のしたいこともせず、また行きたいところへも行かず、授業が終わったらみんなすぐ生徒会室へ。進学希望の会長も、家へ帰って勉強したいに違いありません。そんな中、毎日のように空席が一つ。副会長の一人、寛人君の席です。

東裕之(生徒会長) 文化祭まであと2週間。受付、広報、展示、装飾の各準備、それから実行委員会との打ち合わせ、今週中にすべてを完了させるぞ。

荒木寛二(副会長) ちょっとそれは無理だな、会長。なにしろ展示を担当している寛人があのおりだからね。だもんで、クラブもクラスも何をやるんだかさっぱりだよ。あいつ、やる気あんの？

飯島勅(会計) あの野郎、予算会議にも出てないから、こっちもいくら欲しいのか分かんないよ。この分じゃ2、3万がいいとこだぜ。

東 それはまずいね。いや、絶対まずい。

飯島 首に縄引っかけて引っ張ってくるか。こっちの苦労も知らねえで。

東 おいおい、あまりムチャ言うなよ。とはいうものの、俺だってそういう気分なんだよ、今。

成田真実(書記) ねえ会長。わたしも一言言いたいんだけど、今年も実行委員が当てにならないから、生徒会がほとんどの仕事を引き受けたのよ。それなのに、展示の寛人君に休まれると一番痛いわ。

東 みんなの言うことはよく分かる。しかしこの生徒会役員は、全員立候補だ。嫌々なったんじゃない。きっとあいつにも何か理由があると思うんだ。

荒木 会長が寛人と親友なのは知ってる。それで彼のことがばうんだと思うけど、生徒会で私情は捨てるべきだぜ。それに…。

東 それになんだ？

成田 それに、わたしのクラスの友達から聞いたけど、寛人君、昨日、新宿の喫茶店にいたんだって。

東 なんだって？ よし、君たちがそこまで言うなら、あいつと話してみる。それでいいか？

役員一同 (口々に)「分かった」「頼むぜ」「お願いします」

ナレーション こうして、会長の東君は、次の日、新宿へ出かけました。

効果音 (喫茶店内 BGM、ガヤ)

ナレーション もう1時間近く待っているのに、寛人君は来ません。

東(モノローグ) 寛人、あいつきつと今ごろ、タバコなんかくわえて…。

ナレーション …と、あきらめて腰を上げた時――、

ウエートレス 何になさいますか？

寛人 コーヒー。

ウエートレス かしこまりました。

東 おー、寛人じゃないか。こんなところで会うなんて珍しいな。

寛人 なんだ、白々しいぜ。俺を待ってたんだろう。1本どうだ？

東 いや、僕はいい。お前、このごろ生徒会どうしたんだ？何かあったのか？

寛人 別に何も無い。少し疲れただけだよ。

東 ずいぶん一人前の口を利くじゃないか。疲れてんのはお前だけじゃないんだ。みんなも疲れてる。みんな苦しいんだ。分からないのか？

寛人 お前、俺より生徒会が長いんだから、俺の言いたいこと分かると思ったのに、残念だよ。

東 甘ったれるな。そんな考えじゃ、生徒会なんてやってけないぞ。体育祭、音楽祭、生徒総会、お前も必死だったじゃないか。あのころのファイトはどうしたんだ？

寛人 やっかましいわ。お前、あんな屈辱を味わって悔しくないのか？ 生徒総会の会計報告の時は、あんなに野次を飛ばされ、クラスの半分にはふけられ、体育祭の時は、ケンカでプログラムが乱れ、「役員に責任がある」と言われ、「体育祭一つ満足にできないのか」と笑い物になったじゃねえか。

東 もうよせ。今更言ったって始まらないよ。

寛人 いや、まだある。音楽祭では、俺たちが夜8時までかかって作った1,200部のプログラムが、当日は紙飛行機になり、そのあとプログラムの山で始末に困ったのを覚えているだろう？ もうそんなのはごめんだぜ。沢山だよ！

東 お前、それくらいのことでイヤになるのか？ それくらいのことで覚悟で立候補したんじゃないのか？

寛人 (笑)笑わせんなよ。お前なら見抜いてると思ったけどな。

東 何をだ？

寛人 進学だよ、進学。

東 (けげんそうに)進学？

寛人 そう、進学。大学へ行くことだよ。お前も知ってのとおり、工業高校からの進学は普通高校よりはるかに難しいんだ。生徒会役員でもやってりゃ少しは有利になるからな。会長、お前もそうじゃねえか。

東 バカヤロー！（平手打ち）お前、お前、そんな考えで、そんな自分勝手な考えで立候補したのか？ 全校生徒、そして役員みんなにすまないと思わないのか？

寛人 会長さんよ、今は美談じゃ通んねえんだよ、美談じゃな。夜遅くまで学校に残り、仕事の連続、おまけに成績は下がる。せめてそれくらいの“報酬”は当然じゃねえのか？

東 お前！ お前はクズだ。役員なんかじゃない！

ウエートレス お話中、恐れ入りますが、もう閉店ですので…。

寛人 はい、どうもすみません。

東 寛人、感情的になってすまなかった。

寛人 いや、俺も少し言いすぎた。誰にも聞いてもらえなかった鬱憤を、お前の顔見たら全部吐き出したかったんだ。

東 分かってるよ。——ところでな、寛人。お前、今度の日曜、暇か？

寛人 暇だけど、なぜだ？

東 連れていきたいところがある。練馬の駅、1時だ。いいな？ 必ず来いよ。

寛人 約束ぐらいは守るぜ。

ナレーション こうして二人は別れました。次の日曜、それは教会の高校生特別伝道会でした。そうです、会長の東君は、クリスチャンだったのです。他の生徒会役員たちも、招待されていました。

飯島 なんだって？ 寛人も来るのかよ。

小川(副会長) ただでさえ気が乗らねえのに、あいつの顔見たら、余計だぜ。

成田真実(書記) あら、そんなこと言っちゃかわいそうよ。(寛人を見つけて)お久しぶり、寛人君。

寛人 (バツが悪そうに)なんだ、みんな一緒かよ。

飯島 一緒じゃ悪いか。さんざん迷惑かけやがって。

東 まあまあ。ロゲンカはこんくらいで。さあ行こう。

ナレーション 教会に着くと、もうすぐ伝道会が始まる場所でした。

東 先生、連れてきました。学校の生徒会の連中です。

一同 (口々に)「こんにちは」「初めまして」

小川政弘(牧師) やあいらっしゃい。牧師の小川です。さあどうぞ…。

ナレーション 一同の一番あとから、寛人君が入ろうとすると――。

牧師 やあ、荒木寛人君だね？ お待ちしてましたよ。

寛人 え？ あの、だけど僕…。

牧師 もちろん、初めてでしょう。だけど教会では、君の来るのを長い間待っていたんだよ。東君が、いつも祈り会で君のことを祈ってくれてね。

寛人 え、東が…？

東 いいんだ、そんなこと。さあ入ろう。

ナレーション こうして、伝道会が始まりました。

牧師 高校生の皆さん、よくいらっしやいました。初めての方も大勢いらっしやいますね。君たちの学校では、もうそろそろ学校祭で、準備に忙しい頃じゃないかな。そんな中で、君の毎日の生活はどうですか？ 充実してますか？ 生徒会やクラブでも、やりがいのある仕事を持って、よい友達に恵まれて、楽しく毎日をエンジョイしてますか？ それとも君は、何かどうしようもない問題を抱えて、悩んでいるんだろうか？ もしそうだとしたら、それはどうしてなんだろう？ ——そんなことについて、今日はしばらくの時、一緒に考えてみたいんです。では、聖書を1か所読みましょう。新約聖書、マタイの福音書9章12節からです。(FO)

ナレーション こうして牧師先生のメッセージが始まりました。初めは、居心地が悪そうに窓の外を見ていた寛人君の顔が、いつの間にか真剣になって行きました。

牧師 (FI)わたしたちは、いつも自分が正しいと思っている。自分の犯した間違いにはいくらでも口実を設けて弁解するくせに、他人の欠点や失敗には、厳しく批判の目を向ける。自分のやったことが正しく評価されないと、すぐに頭に来て相手を恨んだりする。それだけじゃない、この激しい受験競争の中で、いつの間にか、イヤな仕事はできるだけ他人に任せ、少しでも楽をしながら、しゃにむに自分の欲望を押し通そうとする。そのためには、かけがえのない友情や愛をさえ、自分のために利用する。——私たちは、徹頭徹尾自己中心なのです。この心が、どれだけ自分自身を惨めなものにしているか、そして周囲の人々を傷つけているか、君は考えたことがありますか？ このエゴイズムを、聖書は“罪”と言うのです。

ナレーション いつか、寛人君の目にキラリ光るものが浮かんでいました。

牧師 私たちは、一人の例外もなく、この“罪”という病を持った病人です。この私たちのために、神のみ子イエス・キリストは、十字架の上で命を捨ててくださったのです。主は、「わたしは罪びとを招くために来たのです」と言われました。そうです、主は今も、あなたを招いておられます。主の十字架のもとにいらっしやいませんか？ そして、新しい、生まれ変わった人生を今、与えていただきませんか？

音楽 (讚美歌「いさおなき我を」)

ナレーション その日、彼の人生に何が起こったのでしょうか？ その晩、彼の書いた日記の一節をのぞいてみましょう。

寛人 (日記)11月6日、日曜。今日は、俺の人生で、今まで経験したことのない出来事にぶつかった。東の行っている教会に、生まれて初めて足を踏み入れて、聖書から話を聞いた。正直、参った。逃げ出したくなった。牧師さんの言葉が、まるで俺に向かって言っているように、ピンピン響いてきた。俺というやつは、いかに自己中心で罪深い人間だったか。こんな者のために、神の独り子のイエス様が十字架にかかってくださったんだ。胸の奥のほうがジーンと熱くなった。気がついたら、「信ずる人は手を上げて」という牧師さんの言葉のままに手を上げていた。

いったい今日、俺の人生に何が起こったのか、まだよく分からない。だが、何か昨日までの自分と違ったものが、心の中に出てきたような気がする。なんて言うか、生まれて初めて“俺は生きてる“ってことが、信じられるような気持ちだ。

音楽 (エンディング。希望と喜び)

聖書の言葉 また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。(コリント人への手紙第二 5:15)

<完>